

# 令和7年度 会派行政視察実施報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	上志の風
事 業 名	あわら市 学力向上の取組について
事 業 区 分	行政視察

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

福井県は、小中学校の全国学力テストの結果において、常に上位にいる状況です。あわら市においても小中学校の学力は上位にあり、どのような取り組みをしているのかの調査研究。

## 2 実施概要

実施日時	視察先	福井県あわら市
令和7年10月17日 13:30~15:00	担当部局	教育委員会 教育総務課
報 告 内 容	<p>1 視察先の概要 福井県 あわら市は、平成16年3月1日に芦原町と金津町が合併して誕生した街です。県の最北端に位置し、西は坂井市三国町、南は同市坂井町・丸岡町、そして北東は石川県加賀市に隣接し、北西は日本海に面しています。 面積 116.98km<sup>2</sup>、人口 26,900人</p> <p>2 視察先の特徴 農業では北部の畑作地帯はスイカやメロンの産地で、南部の平坦地には水田が広がり、六条大麦も国内有数の産出額。製造業では北陸道・金津IC周辺に電子デバイス工場などが進出。 130余年の歴史を持つ芦原温泉は「関西の奥座敷」と呼ばれる。 2024年3月に北陸新幹線芦原温泉駅が開業</p> <p>3 視察項目について ○あわら市の教育 (1) あわら市の教育 <b>ふるさとあわらを愛し、一人一人が夢や希望を持ち個性が輝く教育</b> ～ふるさと愛の醸成と自らの可能性に挑戦する教育の推進～ (2) あわら市の学校 小学校7校 中学校2校 令和7年5月1日現在 1,763人</p>	

報 告 内 容	<p>1、学力向上の取組</p> <p>① 学力向上プランの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に全小中学校が作成（スクールプランに位置づけ）</li> <li>・1年をかけP D C Aサイクルを回す</li> </ul> <p>② 全国学力・学習状況調査終了直後からの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「振り返り表」による自己採点</li> <li>・各学校での独自分析</li> <li>・全教員による分析結果の共有</li> <li>・各学校での授業改善</li> </ul> <p>③ 指導主事学校訪問での授業公開、研究、個別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・18学級以上の小学校（1校）と中学校（2校）は年2回 他の6校は年1回</li> <li>・授業者への丁寧な個別指導</li> <li>・全体研究授業と全体研究会</li> <li>・1人1台のタブレットを使用した授業、道徳、小学校英語（or 外国語活動）は必ず授業を公開</li> </ul> <p>④ 市独自に学力調査を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京書籍の学力調査（目的準拠評価）を活用</li> <li>・小2～小5の4つの学年で実施（全国学調と同じ日に）</li> <li>・各校で分析会、研修会 ※令和7年度は夏季休業中に各校の研究主任集めて研修会</li> </ul> <p>⑤ 教科指導員（英語）を配置 ICT教育指導員を配置 特別支援教育指導員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市予算でそれぞれ1名ずつ配置</li> <li>・市教委に在籍し、日常的に小中学校を回り学校支援、授業支援等を継続</li> </ul> <p>⑥ 小学校英語における教科担任制の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県費による加配教員2名（英語専科教員） 6校を兼務</li> <li>・1校は校内の免許所有者が5、6年の英語を担当</li> </ul> <p>⑦ S A S A（県独自の学力調査）を活用した分析と研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1951年から実施してきた福井県独自の学力調査 （Student Academic Skills Assessment）</li> <li>・小5と中2で毎年12月に実施</li> <li>・結果の分析→全教員で課題等を共有→授業改善→次年度4月の全国学調 【学力向上のサイクル】</li> </ul> <p>⑧ ICTを活用した授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あわら市は「iPad」を導入</li> <li>・授業支援ソフトは「SKY-MENU」</li> </ul>
------------------	--

- ・ドリルソフトは「スマイルNEXT」⇒R7からAIドリルに変更
- ・今年度は、中学校に「プロジェクター」と「スクリーン式電子黒板」を設置
- ・学習機を大型化

⑨ ふるさと教育の推進

⑩ 市費支援員等の配置

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 生活支援員     | 21名(10/10市費) |
| 2. 学校運営支援員   | 9名(5/10市費)   |
| 3. 学習指導員     | 5名(10/10市費)  |
| 4. 市費講師      | 4名(10/10市費)  |
| 5. 市費ALT     | 2名(10/10市費)  |
| 6. 適応指導教室指導員 | 6名(10/10市費)  |
| 7. 部活動指導員    | 6名(1/3市費)    |

2. 学力の現状

(1)全国学調 あわら市と全国平均正答率との比較

(2)R7年度市学力調査結果より、教科ごと学年別に正答率を調査

【成果1 学力の向上】

市学力調査の経年変化を教科ごと小学校2年生から5年生まで調査

【成果2 児童生徒の変容】

- ① 自分にはよいところがあると思いますか(中3) H25とR7との比較
- ② 将来の夢や目標を持っていますか(小6) H25とR7を比較
- ③ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか(中3) H25とR7と比較

3. 福井県の学力水準が高いといわれる理由

①高い同僚意識 仲はいいが、なれあいではない

- ・研究協議の場での意見交換
- ・職員室での指導、助言
- ・魅力ある管理職

②協働する授業づくり

- ・当たり前に行われる「タテ持ち」

(中学校における担当教科の持ち方のことで、一人の教員が3学年すべてを受け持つ)

- ・「タテ持ち」を支える「教科会」

時間割に教科会が組み込まれている

③ 多様なつながりの場

④ 共通の価値観の共有

- ・「学年会」による相談、協議

時間割に学年会が組み込まれている

- ・「子どもたちの為に何が大切か」というきょうつうの価値観を共有

あわら市の教育は、ふるさとを愛し夢や希望を育むことを理念とし、小中9校で体系的な学力向上策を進めています。全校が年度当初に学力向上プランを作成し、年間を通してPDCAを実施。全国学調後には自己採点や詳細な分析を行い、全教員で共有し授業改善につなげています。指導主事による授業公開・個別指導、市独自調査やSASAを活用した研修など、多面的に指導力を高める仕組みが確立されています。また、英語・ICT・特別支援の指導員配置や小学校英語の教科担任制、iPadやAIドリルを活用したICT教育の推進など、学習環境の整備も進んでいます。さらに生活支援員やALTなど多様な支援員が配置され、児童生徒の学びと成長を多方面から支えています。

これらの実践は、上田市の小中学校における学力向上の取組にも大いに活かすことができると考えます。学校間の協働体制を強め、教員同士が日常的に学び合う文化を形成すること、専門人材を積極的に配置して指導を支えること、ICTを授業改善の核として活用することは、上田市の学力向上に直結します。さらに、学力調査や校内研修を活用し、PDCAサイクルを教育活動の中心に据えることで、持続的に成果を積み上げる仕組みづくりが可能になります。あわら市の事例は、上田市が目指す教育の質向上に向けた、特に学力向上取組において具体的な指針となると考えます。



\* 視察先の写真等がある場合は添付のこと